



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	職場・業務紹介 博物館
Author(s)	市川, 秀雄
Citation	北海道大学農学部技術部研究・技術報告, 4, 22-22
Issue Date	1997-03
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/35339
Type	departmental bulletin paper
File Information	4_p22.pdf



博物館 市川 秀雄

◆職場紹介

私の勤務している博物館の沿革はと言うとやはり政府政策、北海道開発のための開拓使設置から始まります。が、そのところは北大の沿革にもなるので省略します。

博物館本館は明治15年（1886）開拓使が廃止されると札幌農学校に移管されました。その後収蔵庫、事務所などの施設が整備され機能が確立されていきます。開拓使より引き継がれた主に自然科学系、民族学的資料の展示に加え、生きた動物の飼育も行われています。この飼育は展示と研究を兼ねたもので、上野の森のような総合的な教育研究と啓蒙をはかる目論見を窺い知る（私の個人的な見解）ことができます。現在、飼育展示はないが昔ながらの特徴ある建物と展示で多くの入館者、研究者の関心を集めています。

この博物館本館、収蔵庫、事務所等を含む建物群が平成元年に国の重要文化財に指定されました。

◆職員構成と仕事内容

現在、職員の構成は兼任の教授（館長）1名、教務系技官1名、技官2名で、現場での作業は兼任の教授を除いた3名で行っています。

ここでの作業内容は標本の維持管理・展示・館内外の清掃・事務処理等、平たく言えば標本ケースにナフタリンを入れたりカビを取ったり、草刈り除雪をしたり、建物の中の掃き掃除、ケースのガラス葺き、電話の応対、伝票整理等です。その他にも来客に対しての案内、学芸員取得のための学生がきた場合の実習指導、研究者への博物館資料の提供等が上げられます。

これらの維持管理作業の中で、私は標本の製作に興味を持ちました。なにしろ標本の中には百年以上も展示されているものもあり、色あせたり形が崩れてしまった標本が多く、ここにしかない極めて貴重な標本もあったからです。それと、小鳥など窓にぶつかって死んだ物が博物館に持ち込まれるケースが多いことです。大型の動物はともかく、小型の小鳥くらいの物は自分で作れるようになりました（最近作ったものではエゾリス・オオタカ・カワセミ等があるが写真を載せられないのが残念です）。今後、徐々に交換したり、補充していく予定です（無闇な殺生はしない）。

貴重な標本に関しては後世に残すためにも業者に依頼し改作して保存していくつもりです。

◆今後の抱負や希望

現在、社会教育の場としてのウエイトが大きく感じられます。もちろん大学としても行うべきですし、当博物館としても啓蒙を開く意味で展示に努力してきましたが、大学の施設である以上、研究の場としてもあって欲しいです。